巻頭特集

優しさをパステルに込めて

橿原市出身の絵本作家 ひらやまてるみさん

子育て中に絵本の世界に飛び込み、作家デビューした、ひらやまてるみさん。これまで発表した作品は、20余りです。温かみのある絵と言葉に、子どもも大人も魅了されています。

子育ての大変な時期に本格的に絵の勉強を開始

カラフルなパステルが織りなす絵と言葉で心温まる絵本の数々。「次のページを早くめくろう」と促す子どものみならず、大人もその優しさあふれる世界観に夢中になります。

橿原市出身の絵本作家・ひらやまてるみさんの作品は、世代を超えて安らぎを与えてくれます。小さい頃から絵を描くことが大好きだったひらやまさんは、漫画の模写などにも熱中していましたが、学生時代は勉強と部活動を優先し、大学卒業後は会社員の道に進みました。

絵を描く情熱が再燃したのは、子育ての真っ最中。34歳の頃、講談社フェーマススクールズ（美術通信教育講座）の存在を偶然知りました。しかし、3年間で多くの課題に向き合うイラストコースの学費は決して安くはなく、また、勉強にあてられる時間は、家事や子育ての合間だけ。学びへの渇望と現在の自身の状況を天秤にかけながら、受講すべきか悩みました。

「子どもが3人いて、子育てが大変な時期だったのに、絵を描きたいという思いは募っていくばかり。何よりも夫が私の背中を押してくれたのが大きかったです。受講することを決めてからは、『無駄にしてはいけない』と必死に絵と向き合っていきました」と、ひらやまさんは振り返ります。

手作業で1冊ずつ製本 温かみのある手づくり絵本

本格的に絵の勉強を始めてから1年後、ひらやまさんのもとに将来の指針を決定づける情報が舞い込みます。それは、講談社フェーマススクールズが主催する絵本コンテストの実施でした。子どもが小さかったこともあり、学んだことを絵本に生かそうと考えたひらやまさんは、同講座の課題に加えて、コンテスト用の作品制作にも励みます。

時を同じくして、手づくりの絵本にも取り組み始めます。ひらやまさんは製本の経験がありませんでしたが、独学で試作を繰り返しました。初めての手づくり絵本『いいきもち』（2007年刊）は、数年かけて完成させた力作です。

「原画を何度も描き直し、絵本を真四角の形状にしたり、表紙を布製にしたりしたこともありました。思い入れのある作品の一つです」と思い出を語ります。

これまでの創作活動で、ひらやまさんが印象に残っているのは、2015年、毎年挑戦していた同絵本コンテストでの奨励賞受賞です。受賞パーティーでは、絵本作家や審査員の先生方から講評やアドバイスを聞いて身が引き締まる思いでした。

「受賞できたことはうれしかったのですが、同時にプロとのレベルの差を痛感しました。実はその頃、闘病中だったのですが、一度きりの人生だからこそ貪欲に挑戦しようと、本格的に絵の勉強を始めました」と心情を吐露するひらやまさん。アマチュアとしての甘えを払拭し、日本画やパステル画についても意欲的に学び始めました。

プロの絵本作家として ずっと歩み続ける決意を

精力的に手づくり絵本を発表し続けるひらやまさんに転機が訪れたのは、2020年のこと。株式会社幻冬舎から、作品の出版化について提案があったのです。作者も費用を負担する自費出版での契約でしたが、大手出版社からのオファーにひらやまさんは心が迷いました。

「この時も、夫の助言を受けて出版することにしました。『にこにこさん』の電子出版化を契機に、プロの絵本作家として一生精進しよう、と覚悟を決めたんです」と、当時の思いを口にします。

ひらやまさんの初出版作品『にこにこさん』（幻冬舎）は、にこにこさんと家族の触れ合いを、オノマトペを用いて描いた心温まる絵本です。これまでに、『しらす』『すこし心がつかれたら…』『にこにこさん まねっこ』も含めた4作品を書籍化しています。今後の目標は、出版社からの依頼で絵本を描き続けること。「口に出せば恥ずかしいですが、口に出さないと、夢は叶いません。たとえ叶わなかったとしても、その目標に向かう道のりを歩み続けていられるのならば十分です。一生、絵を描いていきたい」と前を見据えます。

子どもと一緒に楽しめる絵本づくりをこれからも

毎年11月は、児童虐待防止推進月間と定められています。子どもへの虐待をなくすことを啓発するオレンジリボン運動を通して、虐待のない社会を築くことを目指しているのです。

ひらやまさんも、3人の子どもを育てている母親の一人。「子育てと創作活動の両立は、楽しい反面、苦労することもありました。ですが、子どもたちと濃密に触れ合えるのは小さい頃だけだと思います。さまざまな後悔はありますが、とても貴重な経験を味わえました。子育て中にほっとできる時間を過ごしていただけるよう、これからも世代を超えて愛される絵本をつくり続けていきます」と優しい眼差しでほほ笑みます。

ひらやまさんのアトリエは今井町にあり、軒先では、ポストカードの無人販売を行っています。ひらやまさんの在宅時は絵本の購入も可能です。ぜひ手に取って、ひらやまさんの描く優しい世界に触れてみてはいかがでしょうか。

1. 忙しくも愛すべき子育ての日常に、温かく寄り添ってくれる、ひらやまさんの絵本。大人が読んでも気持ちが軽くなります 2. アトリエの軒先に無人販売所を設置。ポストカードは動物や子どもなどをテーマにした作品を豊富に取りそろえ、絵本の見本も置いてあります 3. 絵本やポストカード、小物などは、今井町にあるハンドメイド雑貨店「幸多箱（こたばこ）」でも購入できます

ひらやまさんが描き出す色彩鮮やかな絵柄は、見ているだけでも癒やされます

最近では、下描きからパステルで直接描き始めています。細かい箇所には、色鉛筆などを使う時もあります

information

絵本作家
ひらやまてるみさん

『しらす』『すこし心がつかれたら…』『にこにこさん まねっこ まねっこ』は、オリジナル絵本通販サイト「YOMO」から購入できます。『にこにこさん』は、Amazon などの電子書籍ストアより購入可能。手づくり絵本は、ハンドメイドマーケットサイト minne 内「てるみえほん」をチェック。作品・活動情報は、ひらやまさんのインスタグラムで発信中です

オリジナル絵本通販サイト「YOMO」
ハンドメイドマーケットサイト「minne」
インスタグラム［@terumi.ehon］

無人販売所にお越しの際は、一度こちらにDMください。

文／松本雅樹　写真／アドライフスタジオ 清水光市　デザイン／長濱由衣子